



木木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2018年9月29日(土) 第97号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557
ホームページ：http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm

平成30年度 第2回 連続セミナー



「特性に基づいた視覚支援」

川崎医療福祉大学 准教授 諏訪 利明 氏

今回は、以前実施していた「実践セミナー PEP-R講習会」で長年、講師をお願いしておりました諏訪利明先生をお招きして、特性に基づいた視覚支援の大切さについてお話をいただきました。

視覚支援を行う上で、「なぜ、視覚支援を行うのか」「何を視覚支援するのか」「何のために視覚支援を行うのか」をしっかりと理解することが重要であると、まず始めにお話されました。

○なぜ、視覚支援を行うのか・・・

自閉症の人は「視覚的に学ぶ」からである。自閉症の人は、視覚処理が得意であり、理解するまでに時間を要する特性がある。また具体的思考の人が多い。以上のような自閉症の特性に基づいた視覚支援が重要であると話されました。加えて、「どんな行動があるのか」「どのように見えるのか」「どのように考えたり、理解したりするのか」といった一人一人の力をアセスメントすることが、本人が「分かる」ための視覚支援につながると話されました。

また、我々が自閉症の人に「正しく伝える」ためには、そのほかの自閉症の学習スタイルにも考慮しながら、「視覚的構造化」「スケジュール」「ワークシステム」について整理していくことが大切であるとの話がありました。

○何を視覚支援するのか・・・

- ・ 指示書や手順書等を使って「どのようにすればいいのか」を示す。
- ・ 物理的構造化をして「どこですればいいのか」を示す。
- ・ スケジュールを使って「いつすればいいのか」を示す。
- ・ ワークシステムを使って「何を、どれだけ、どうなったら終わり、次は何か」を示す。

情報を視覚的に整理し、「自閉症の人が自立して生活するためにはどうしたらいいのか」という視点をもって支援することが重要であると話されました。

○何のために視覚支援を行うのか・・・

視覚的支援の実施は、「組織化を高める」「意味と明確さを増やす」「混乱と不安を減らす」「柔軟性と般化を支援する」ことができ、「自立を高める」ことになる。視覚支援の目指すものは、「自立」と「コミュニケーション」そして「人との関わり」である。視覚支援は、自閉症の人の「理解」を促すだけでなく、「表現」を促すためにも必要であると話されました。

そのほか、家族による幼児向けTEACCHである「FITTプログラム」についてのお話やTEACCHのコアヴァリュー（核となる価値）「Teaching」「Expanding」「Appreciating」「Collaborating」「Cooperating」「Holistic」についてのお話もいただきました。

実践セミナーの報告

6月23日(土)、NPO法人 自閉症eサービス理事長 中山清司氏をお迎えして、実践セミナー「アセスメントに基づいた評価の組み立て—TTAP検査を基に—」を開催しました。



「TTAP」とは、TEACCH Transition Assessment Profileの頭文字をとったもので、青年期・成人期心理教育診断評価法(AAPEP)の改定版となります。この検査は、「自閉症のある青年・成人の人が、今、身につけている力はどんな力なのかを支援者が的確に把握すること」と「学校生活から社会生活へと生活の場を移行していく中で、適切な移行支援計画を立てていくこと」等の目的があります。

まず午前中、「TTAP」についての講義がありました。TTAPの目的や意義、一つ一つの検査項目について、丁寧に講義いただきました。

午後は、検査道具を実際に手に取ったり、中山先生が検査を行った動画を見ながら各検査項目について評価をしたりしました。実際に検査道具を目の前にすることで、午前中の中山先生の講義がより具体的に分かり、検査内容についてイメージすることができました。また、項目ごとに自分たちで評価をすることで、実際に検査を実施している感覚をもつことができました。

最後は、検査結果を基に具体的な支援計画を立てました。今回のアセスメントから本人の特性や得意な点をしっかりと把握して、「苦手な部分をどう補うのか」「もう少しでクリアできそうな課題は何なのか」等をグループで話し合い、中山先生に講評いただきました。

1日という長丁場のセミナーでしたが、終始、和やかな雰囲気の中、中山先生のお話で、あっという間に時間は過ぎていきました。受講された方から、一人一人、アセスメントをすることの大切さや的確な評価、根拠に基づいた支援計画の在り方について実感することができた・・・との声をいただきました。



自閉症の方を支援をする上で、一人一人の特性や学習スタイル等、的確なアセスメントをすることは大前提となります。「アセスメントに基づいた評価の組み立て」実践セミナーは、来年度も実施する方向で考えております。皆様も、参加してみませんか？

平成30年度 TEACCHプログラム研究会 第4回連続セミナーのお知らせ

期 日：10月27日(土) 13:30~16:30
場 所：千葉商工会議所 第1ホール(建物14階になります)
演 題：「幼児期の支援：通園部での取り組み」(仮題)
講 師：榊原 舞 氏(横浜市東部地域療育センター 通園部 児童指導員)
安倍 陽子 氏(横浜市東部地域療育センター 臨床心理士)

(編集後記) 今回の広報で御紹介したセミナーの講師である諏訪先生、中山先生のお話の中で共通するキーワードは「アセスメント」でした。自閉症の人を支援するということは、「一人一人の自閉症の人の特性や学習スタイルを理解することから始まる」ということを改めて実感しました。一人一人の自閉症の人に合わせた「視覚的支援」や「構造化」、「スケジュール」や「支援計画」ほか、丁寧に考えていきたいですね。自閉症の人が求める支援を目指して、これからも一緒に勉強していきましょう。(山中)